



TITLE:

京大広報 No. 71

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 71. 京大広報 1972, 71: 263-264

ISSUE DATE:

1972-04-14

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209623>

RIGHT:

京大広報

No. 71

京都大学広報委員会

電話番号、通話方法等の変更について

本学の吉田地区の電話番号がきたる昭和47年4月30日(日)午前0時を期して全面的に切り替えられます。これは、年年増加する電話機設置の要求にこたえるためのもので、吉田地区の電話設備は、本部地区と病院地区の二つのブロックに分割されます。病院・結研・ウィルス研を新たに一つの団地として分離し、第2電話庁舎を病院構内に設け、病院地区の回線を本部地区既設クロスパー式自動交換機(実装2160回線)から切り離すことになります。このため、昭和46年度施設整備において病院地区の事業所集団電話720回線の新設と本部地区の720回線の増設を施工してきました。

今回病院地区に設置される事業所集団電話は、着信通話の接続を交換手を介さず、直接構内電話機に接続する方式で、電話番号は751局の3000～4000番代に収容されます。なお、発信方法は、従来と同様です。

本部地区については、大代表番号が従来の771—8111から751—2111に変更になり、構内電話番号も今後の電話機増設を考慮して番号枠を広げたため、全面的に新番号に切り替えられますが、着信・発信の方法は、従来どおりです。

本部地区・病院地区相互間については、構内電話番号の前にダイヤル19を回すことにより通話が可能になります。

また、本部地区から宇治地区へはダイヤル17、宇治地区から本部地区へはダイヤル8により通話できます。

その他使用方法等の詳細については、近日配布する新構内電話番号表を御参照ください。

なお、4月30日(日)の切替えにあたっては、使用上の不慣れ等により多少の混乱も予想されますので、関係方面への周知徹底方について、本学教職員のかたがたの御協力をお願いします。

(事務局施設部)

月曜会メモ

第101回(3.24) 司会 伊藤一郎会員
部局報告：農学部、薬学部、文学部、工学部および教養部から各学部の現況と学年末教務との関連などについて報告があった。

議題：月曜会のあり方について

まず、前回行なわれた討論の概要をとりまとめて前回司会された松田良一会員より報告され、また、本日の会合に欠席された木原正雄会員よりのメモを司会者が伝え、ついで前回からの持ち越し議題となっている月曜会を存続するか廃止するかの問題についての討議に入った。今回は総長、学生部長も出席され、各会員より活発な意見が述べられた。

これらの意見を大別すると、存続すべきであるとする意見、廃止すべきであるとする意見、および存続に対して積極的に賛成も反対もしないという意見に分けることができる。それぞれの意見について述べられた理由の多くは、すでに過去にこの問題について討議された第89回、第90回、第100回の月曜会メモ(京大広報No.55およびNo.68)に要約されている意見と大差がなく、要するに月曜会の性格や意義に対する会員各自のうけとめ方の相違がそのまま異なった意見として反映されているように考えられる。今回述べられた意見のうち、上記の月曜会メモにはみられないものと

しては、

1) 月曜会の現状では各部局の現況報告などが主になっていて、大学の理念やあり方についての議論が少ない。これでは月曜会の存続に疑義を持たざるをえない。

2) 月曜会は、討議内容、運営の方法などを含めてすべてが中途半端である。各部局の現状をよりよく認識できるようにするためにはもっと出席者が多くなるように配慮すべきである。

3) 月曜会はfree talking の場とされているが、必ずしも自由な討議を充分行ないえたとは思えない。また、free talking をさらに有意義にするためには若い会員をもう少し多くして意見を聞くべきではないか。

4) 月曜会にはいろいろな意義があると思って出席している。性格は必ずしもはっきりしていなくても、free talking の場としてこの種の会合があってもよいと思う。

5) 京都大学のような巨大な組織体になれば、それを維持発展させるためには情報交換の場というものがきわめて大切なものとなる。このような意味から、情報交換や free talking の場はできるだけ多い方が望ましいと考える。

などであった。

以上のように、今回の討議においても、月曜会の存続については会員の間にかなり否定的なまた批判的な意見があり、また、一方ではその存続を希望する意見も少なくなかった。しかし、存続をよしとする意見においても、月曜会の性格やメリットなどについてのうけとめ方は必ずしも一致しているわけではなく、討議のテーマの選定や会の運営方法などについては、現状で充分満足してい

るという意見は比較的少ないようであった。

会員相互の討議の後、総長の意見を求めたところ、運営の方法についてはいろいろ問題があるかもしれないが、総長としては自由な討論の場としての月曜会の意義は確かにあると考えているので、なんらかの形で月曜会は存続してほしいと思うという希望を述べられた。

討議の内容は大略以上のとおりであったが、最後に司会者から今回の討議のしめくくり的なとりまとめとして以下のような提議を行ない、出席会員全員の諒承をえた。すなわち、前回および今回の2回の討議を通じて月曜会の存続に関する会員の意見は賛否たがいにはほぼ相半ばしていると考えられるが、月曜会そのものは本来総長の希望により設けられたものであるという事情も考慮して、来年度も月曜会を存続して本年度と同様に月1回の会合をもつようにする。しかし、運営の方法についてはさらに検討すべき点も少なくないと思われるので、この問題については次回にさらに継続して討議する。

以上の結果、次回には月曜会のあり方として運営の方法について討議することとなったが、さらにそのほかに他大学との授業交流および単位の相互認定の問題についても討議することで意見の一致をみた。なお参考のために、月曜会の運営の方法について今回の討議の中で出されていた意見にはつぎの2点があったことを付記しておく。

1) 会の司会者を1年間にわたって各部局の会員にあらかじめ割り当て、諒承をえておくこと。

2) 討議のテーマを会の開催通知とともにあらかじめ全会員に知らせておくこと。

(伊藤一郎会員、吉田郷弘会員)